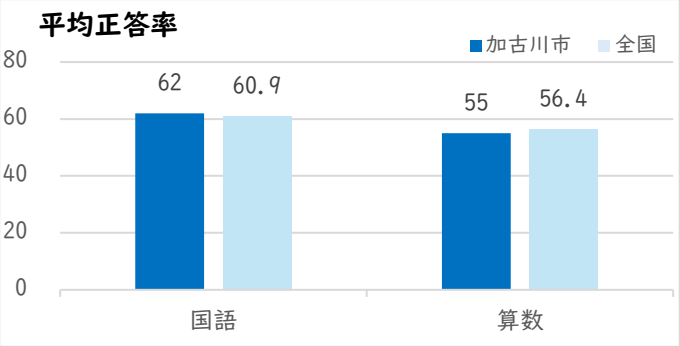
保護者のみなさんとともに考える

加古川市の学力・学習状況（小学校）

令和８年度 全国学力・学習状況調査の結果から

令和8年4月、児童の学力・学習状況の分析、成果と課題を把握し、授業改善を図ることを目的として、全国学力・学習状況調査が行われました。
この調査における加古川市の児童の現状を分析し、結果をまとめました。

- ２教科とも平均正答率（以下、正答率という）は、全国平均（以下、全国という）と同程度です。
- 基礎的な知識や技能は身に付いており、成果がみられます。
- 思考力、判断力、表現力について、課題がみられます。
- 記述式問題で、自分の考えを書いている児童の割合が全国を上回っており、協同的探究学習※の理念に基づいた授業の成果が表れています。



掲載している内容は、学力・学習状況の一側面を示すものであることを踏まえつつ、**以下のポイント**に示すような「**協同的探究学習※**」の大切な考え方を共有します。授業の改善や家庭との連携のあり方についてともに考えるきっかけとし、これからの時代に求められる資質・能力の育成を図ります。

協同的探究学習※についてはこちら

算数科

小学校算数

小算数正答例

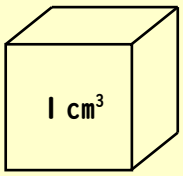
体積の意味について理解しているかどうかをみる問題

【問題】１（３）

１cm³の立方体が36個あります。

36個をすべて使って、高さが４cmの直方体を１つ作りました。

その直方体の体積は何cm³ですか。



【正答】

36（cm³）

（１cm³の立方体が36個あることから、直方体の体積は36cm³になる。）

誤答には、「144 cm³」「9cm³」など、高さの４cmを使った解答がみられました。公式を用いた学習を繰り返すのではなく、なぜ「縦×横×高さ」の乗法を用いて体積を求めることができるのかを児童が説明する学習を通して、体積の意味について捉えることが大切です。

また、形が異なる立体でも、１cm³の立方体の数が同じ場合は体積も同じであることを、ブロックの具体的な操作や児童が考えを説明することにより、「体積は１cm³の立方体のいくつ分」という理解を深めることが期待できます。

算数科では、すべての記述式問題で、自分の考えを書く児童の割合が、全国と比べて高くなっています。引き続き、児童一人一人が主体的に取り組み、今までの学習内容や日常生活と結び付けながら深い理解につなげていくことが大切です。

国語科

小学校国語

小国語正答例

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題

【問題】２四

花山さんは、【集めた情報】をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを【花山さんの文章の続き】に書いています。

あなたが花山さんなら、□に入る内容を、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

条件① 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、ぬき出して書くこと。
条件② ぬき出した本の題名と本文の一部の内容は、かぎかっこ「　」でくくること。
条件③ ぬき出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書くこと。
条件④ 百四十字以内にまとめて書くこと。

【正答例】

「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照り付けるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

１　はじめに

夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがァみじかい方がすずしいのではないか。なぜ、長そでの服を着ているのかィふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすためのくふうについて調べることにした。

２　どうして暑い日に長そでの服を着るのか

「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直しゃ日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。

では、すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのだろうか。

３　すずしく過ごせる長そでの服の着方はあるのか

「熱中しょうかん境保健マニュアル 2022」には、暑さをさける衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする。」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とは」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。〈図〉のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそうだ。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。

〈図〉



【花山さんの文章の続き】

４　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、□

５　終わりに

これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしてきたい。

（参考文けん）

国語科では、自分の考えを書くことができる児童の割合が、全国と比べて高い傾向にあります。誤答には、複数の条件のうち一部の条件については満たしていますが、他の条件を満たしていないといった課題がみられました。

課題の解消に向け、本などに書いてあることを引用する意義について理解を深めることが有効です。

例えば、引用を「　」で表す必要性や、引用して書いた文章がもつ説得力について、一方的に教え込むのではなく、児童が意見を出し合い理解を深めていくことが効果的です。

児童一人一人が自分の考えの過程と根拠や理由を明確にし、他の多様な考えを関連付けて新たな気付きや発見を出し合うことで、思考力、判断力、表現力等の育成につながっていきます。

児童の学力を育む　家庭での取り組みポイント

Point 読書

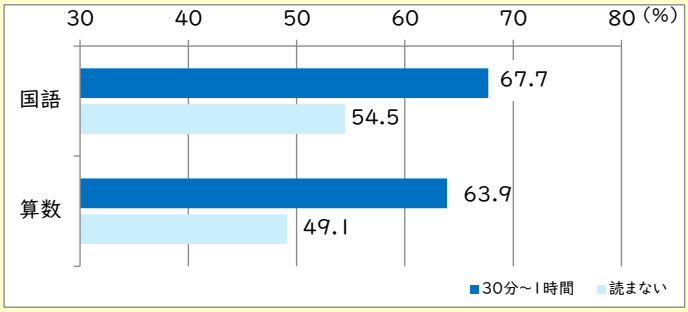
普段から読書をしていたり、放課後や休日に地域の図書館に行ったりすると回答した児童ほど、正答率が高い傾向がみられました。読書に親しむことで新たな知識を得たり、視野を広げたりすることができます。

加古川市では、いつでも読書ができるように、電子図書館に「読み放題」のコンテンツを導入しています。

利用者 ID とパスワードは児童が持っていますので、児童の読書にぜひ活用してください。

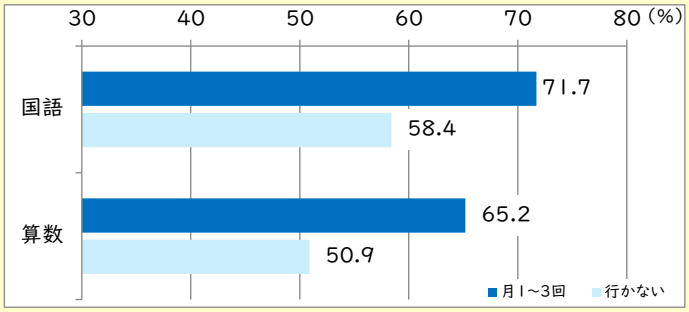
電子図書館
「読み放題」

学校の授業時間以外（月～金曜日）の
一日あたりの読書時間と児童の正答率



※回答項目には、他に「２時間以上／１～２時間／１０～３０分／１０分以内」がありました。

放課後や休日に本を読んだり借りたりするために、
図書館に「月１～３回行く／行かない」と答えた
児童の正答率



※回答項目には、他に「週４以上／週１～３回／年に数回／ほとんど行かない」等がありました。

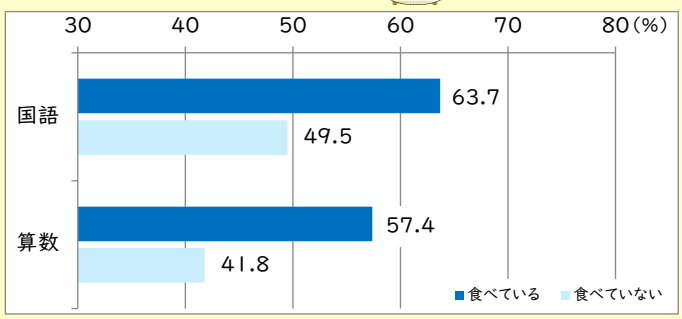
Point 早寝・早起き 朝ごはん

児童の学力向上には、学校での授業や家庭学習の充実に加え、規則正しい就寝や起床、毎日朝食を食べるなど、基本的な生活習慣を整え、家庭での生活を充実させることも重要です。

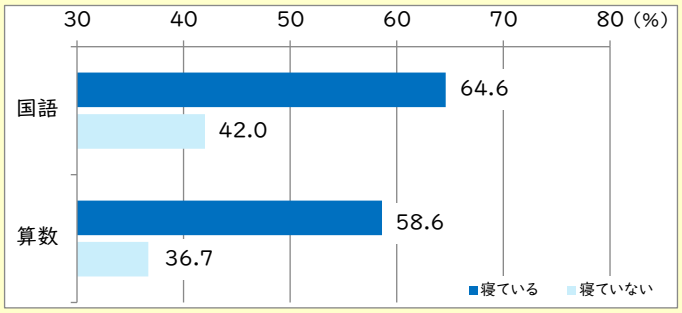
朝食を、毎日「食べている／食べていない」と
答えた児童の正答率



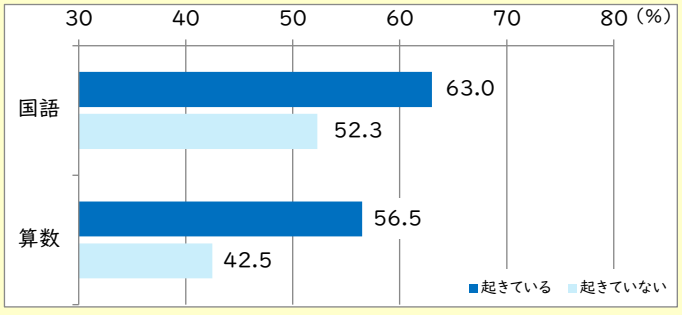
加古川市
食育マスコット もぐピー



毎日、同じくらいの時刻に
「寝ている／寝ていない」と答えた児童の正答率



毎日、同じくらいの時刻に
「起きている／起きていない」と答えた児童の正答率



基本的な生活習慣のほか、
家庭教育で大切なことについて、
冊子にまとめています。
こちらもぜひご覧ください。

家庭教育

「家庭教育１・２・３」

会話

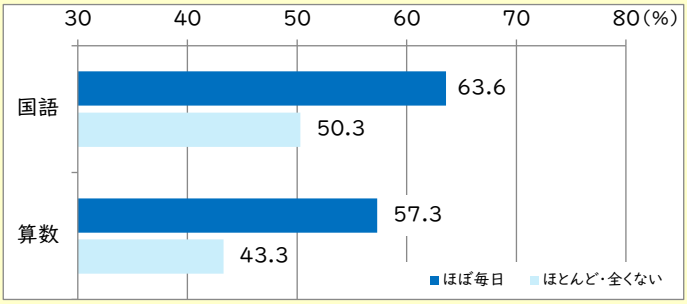
授業では、「**協同的探究学習**」の理念を取り入れながら、一人一人の児童の考えを学級全体で共有し関連付けることで、児童は、新しいものの見方や考え方に気付いたり、自分の考えを深めたりしています。

家庭でも、様々な話題について、児童が自分の考えや考えた理由を説明したり、保護者の考えを聞いたりすることは、新しい見方や考え方にふれるきっかけになります。

また、児童は、自分の考えや思いが受けとめられることで、認められたと感じる機会にもなります。

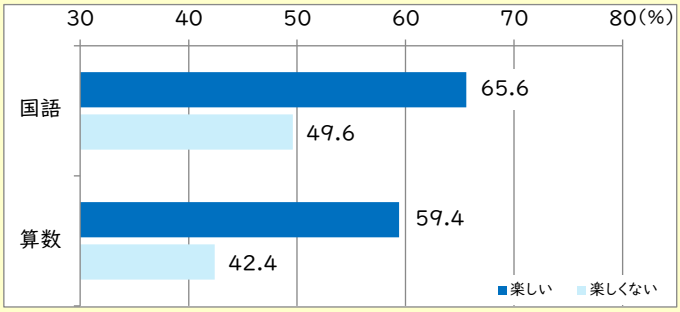
家庭で、今日どんな学習をしたのか、どんなことを考えたのか等、会話することが大切です。

学校の勉強のことについて、親や家族と「ほぼ毎日話す／ほとんど・全くない」と答えた児童の正答率

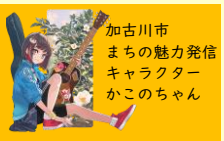


※回答項目には、他に「週１～２回／月１～２回／年１～２回」がありました。

自分と違う意見について考えるのは「楽しい／楽しくない」と答えた児童の正答率



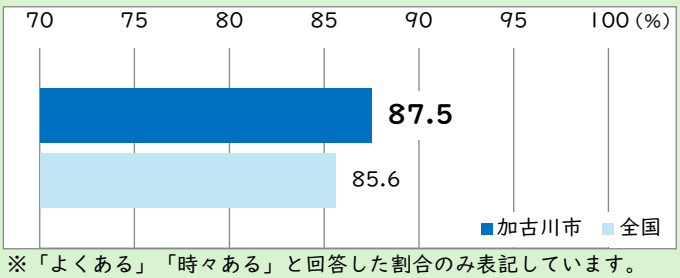
学校での学習に関すること以外にこのような話題も考えられます。



- 学校生活（友だち、先生など）
- 日々の出来事（最近あった面白いこと、ニュース）
- 将来について（進路、夢、したいことなど）
- 家族の予定や思い出話
- 食べ物（給食、晩ご飯のメニュー、食べたいもの）
- 趣味（好きな本、音楽、アニメ、ゲーム、ファッション）

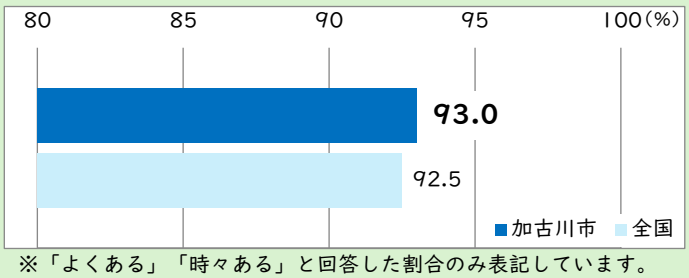
自己肯定感が高い傾向にある　加古川市の児童

「自分にはよいところがある」と答えた児童の割合



※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになる」と答えた児童の割合



※「よくある」「時々ある」と回答した割合のみ表記しています。

日本のこどもたちには、自分の考えに自信が持てず、表現できないという傾向がみられます。こどもは本来、自分の思いや考えた理由を表現したい、受けとめてもらいたいと思っています。

学校での協同的探究学習と同様に、家庭での会話を通じて、「そうだったんだね」「なるほど」「わかるよ」と、こどものことばを肯定的に受けとめることで、自己肯定感が育ち、これからの人生を歩んでいくうえで大切なウェルビーイング（幸福度）も高まります。



未来を拓く学び推進アドバイザー
東京大学大学院　藤村　宣之　教授